

**013** The ecology of plants brought back to us the full wonder of nature.

\*ecology 名 生態、生態系      brought back A to B    AをB(人)に思い出させる  
wonder 名 驚異

 この文の主語を  で囲み、述語動詞に        を引いてから、日本語に直しましょう。

 The ecology の後に of plants が続いています。名詞の後に<of 名詞>が出てきたら、<A of B> で1つの名詞としてとらえます。「植物の生態」という意味になります。

 plants ままでが名詞句だとわかったので、ここまでが主語で、次に述語動詞が出てくることを予測します。すると、brought back が出てきました。これが<bring back A>の過去形と過去分詞のどちらなのかを考えましょう。まずは過去形と考えて読み進め、それがうまくいかなかったら過去分詞として考えることにします。bring back にはいくつかの意味があるので、辞書で確認してみましょう。

 brought back の後には目的語が続きますが、ここでは to us が来ています。辞書を調べた時に、<bring back A to B> で「AをB(人)に思い出させる」という意味があることを確認できたと思います。A が長いので <bring back to B A> という語順になっている可能性を考え、to us の後に目的語になる名詞句が出てくることを予測します。

 to us の後に the full wonder of nature という名詞句が出てきたところで、the full wonder of nature が bring back の目的語だとわかります。本来は <brought back A to us> という語順になるところが、A が the full wonder of nature と長いので、読みやすくするために文末に移動させた形になっています。

ちなみに 動詞の目的語は、ふつう動詞の直後に置かれますが、この文のように、目的語が長くて情報が多い場合には、読みやすくするために文末に移動させることがあります。このような工夫を<文末重点>といいます。

 the full wonder of nature は、文頭の The ecology of plants と同じく<A of B>の形になっていることを確認しておきましょう。「自然の驚異のすべて」という意味になります。brought を過去分詞と考えると、述語動詞がなくなってしまうので、やはり過去形で、主語の The ecology of plants に対する述語動詞になっているのだとわかります。

構造

The ecology of plants brought back <to us> the full wonder of nature.

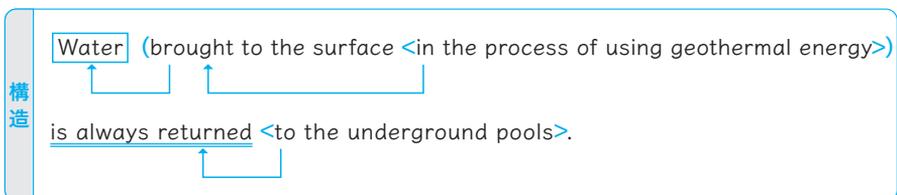
訳 植物の生態は、自然の驚異のすべてを私たちに思い出させてくれた。

**014** Water brought to the surface in the process of using geothermal energy is always returned to the underground pools.

\* surface ㊦ 表面    geothermal energy ㊦ 地熱エネルギー    underground ㊦ 地下の

 この文の主語を  で囲み、述語動詞に        を引いてから、日本語に直しましょう。

- ☀ Water brought to the surface まで見たところで、brought が過去形なのか過去分詞なのかを考えます。[013]と同じように、まずは過去形と考えて読み進めてみましょう。
- ☀ bring は **<bring A to B>** の形で「A を B に持ってくる」という意味を表します。ここでは、brought の直後に A にあたる名詞がなく、to the surface が続いています。A が長いために to B の後に移動した可能性もあるので、後ろを見てみましょう。すると、in ... energy という前置詞句があり、さらに is という動詞が続いているので、語順の入れ替わりはなさそうです。そこで、brought は**過去分詞**で、Water を後ろから修飾していると読みを修正します。「地表に持ってこられた水」という意味になります。
- ☀ surface の後に in the process of A (A の過程で) が続いています。**<前置詞+名詞>** には、直前の名詞を修飾する形容詞のはたらきと、動詞を修飾する副詞のはたらきがありますが、ここでは、brought を修飾する**副詞のはたらき**をしていると考えます。
- ☀ the process of using geothermal energy の using は、前置詞 of の後に来ているので、**動名詞**だと考えます。すると、<A of B> の形になっているので、1つの名詞としてとらえましょう。「地熱エネルギーを利用する過程」という意味になります。
- ☀ geothermal energy の後に is always returned が出てきたところで、Water から geothermal energy までが**主語**で、is always returned が**述語動詞**だとわかります。
- ☀ is always returned を見たところで、「どこに戻されるのかな?」と考えながら読み進めると、to the underground pools という **<前置詞+名詞>** ができて、「地下の貯水池」に戻されるのだとわかります。この **<前置詞+名詞>** は is returned を修飾しています。



**訳** 地熱エネルギーを利用する過程で地表に持ってこられた水は、常に地下の貯水池に戻される。